





又位を尊居するも一と有服
と云ひしるべき

故帝の御子として 細院の崩
後よりりしなり 養老に
后服の女三、又の御子と云
一故帝の御子 明桐壺
帝尊三宮か

あさうかの姫をさうりりよ
の法 惟 權の袂跡を桐壺
の法あつたそれの袂跡を
くく七日の服三日のやと
るれいれとてけく日敷
と云べし 孟日

ものいつたよのそわ
阿孫王為奇院 真子女王
文子中勢 仁和五年 上定
雅彦親王 孫王例は一度 愚菜
花も 穆子女王孫王奇院
の例と云たり 帝王系圖
を考るよ 穆子の光孝天皇
の内親王とて 奇院と云り
まつたり 云たり 花も
の袂跡可勘と 細花身
の袂跡可勘と云

若、又内親王者依世次前定諸王
ハとのうき書せり 孫王の袂跡よ
と云

中ねよと云れ 細 奇院のつひ
みどい跡の法ゆえ 細 孫王の
こころさすりて 右の跡ま
つりての叶ま せり 史記云
孝惠為入 仁弱

史記云孝惠為入 仁弱

細院の父古故大原
如後と云く 一平
がとあり 同

なり 故院の御子と云
わさう御のひめをい
とのいつたよのそわ
くそあつたざり
せざりきんぢの
らうのりれ
かりぬれ
つとぬれ
とぬれ
よとぬれ

わさう御のひめをい
とのいつたよのそわ
くそあつたざり
せざりきんぢの
らうのりれ
かりぬれ
つとぬれ
とぬれ
よとぬれ

らうのりれ
かりぬれ
つとぬれ
とぬれ
よとぬれ

とぬれ
よとぬれ

よとぬれ

よとぬれ

よとぬれ

よとぬれ

よとぬれ

よとぬれ

河五壇修法降三世
軍荼利 大威徳 金剛
夜叉 中央不動

行々々々不動中も
五大明王法を修ら
明中壇の
必御奉

中納言の
女房の
孟勝の
御前

宿申 奉大將以下
上帝候之中至其上
御前 殿上及宿
申之 殿上及宿
御前 殿上及宿
申之 殿上及宿
御前 殿上及宿
申之 殿上及宿

宿申 奉大將以下
上帝候之中至其上
御前 殿上及宿
申之 殿上及宿
御前 殿上及宿
申之 殿上及宿
御前 殿上及宿
申之 殿上及宿

宿申 奉大將以下
上帝候之中至其上
御前 殿上及宿
申之 殿上及宿
御前 殿上及宿
申之 殿上及宿
御前 殿上及宿
申之 殿上及宿

宿申 奉大將以下
上帝候之中至其上
御前 殿上及宿
申之 殿上及宿
御前 殿上及宿
申之 殿上及宿
御前 殿上及宿
申之 殿上及宿

宿申 奉大將以下
上帝候之中至其上
御前 殿上及宿
申之 殿上及宿
御前 殿上及宿
申之 殿上及宿
御前 殿上及宿
申之 殿上及宿

宿申 奉大將以下
上帝候之中至其上
御前 殿上及宿
申之 殿上及宿
御前 殿上及宿
申之 殿上及宿
御前 殿上及宿
申之 殿上及宿

宿申 奉大將以下
上帝候之中至其上
御前 殿上及宿
申之 殿上及宿
御前 殿上及宿
申之 殿上及宿
御前 殿上及宿
申之 殿上及宿

異本 ひとり... 五月八日 齊宮の内々

... 孟 昔より... 権の姫君... 今も...

... 細 家... 時... 頃... 頃... 頃...

... 六十卷... 頃... 頃... 頃...

... 頃... 頃... 頃... 頃...

... 頃... 頃... 頃... 頃...

... 頃... 頃... 頃... 頃...

... 頃... 頃... 頃... 頃...

... 頃... 頃... 頃... 頃...

... 頃... 頃... 頃... 頃...

... 頃... 頃... 頃... 頃...

... 頃... 頃... 頃... 頃...

... 頃... 頃... 頃... 頃...

作 未書... 六十卷... 例也

... 頃... 頃... 頃... 頃...

... 頃... 頃... 頃... 頃...

... 頃... 頃... 頃... 頃...

... 頃... 頃... 頃... 頃...

... 頃... 頃... 頃... 頃...

冷泉夜も涼の序也くれすもあつるよりて成之のよあよの序序を何と
の序とすしり也我も後の大なり保とてくり愚云夜の夜あるまよ不及 師言ま
てハ冷泉夜と成まよけくくりは昔の相も亦文とてのみをになりて作れハ
原氏伯父とてかりまするも海也又冷泉夜の序也よけりて世の政とる原氏の
うろと序とすまどくも何れもなれは原氏参進のよあまそそんと下
よあゆく成之のなまよりの序りんとすも人といひり也
とれくろやまこくろりしきうん 孟 孟とてぬまゆえ 師 師の山容成山名余亦智
皆りてとけしこも冷泉夜のうくれりあつるもくろりハらりてまうん
其つるまも 血 血上の又之師のまわりの中あり其の共るまわりの序とす言れ

中くろりまこ
幾くろりの三字成之の
元の心乃き成り
師原とりくろりまこ

あつるよりて成之のよあよの序序を何と
の序とすしり也我も後の大なり保とてくり愚云夜の夜あるまよ不及 師言ま
てハ冷泉夜と成まよけくくりは昔の相も亦文とてのみをになりて作れハ
原氏伯父とてかりまするも海也又冷泉夜の序也よけりて世の政とる原氏の
うろと序とすまどくも何れもなれは原氏参進のよあまそそんと下
よあゆく成之のなまよりの序りんとすも人といひり也
とれくろやまこくろりしきうん 孟 孟とてぬまゆえ 師 師の山容成山名余亦智
皆りてとけしこも冷泉夜のうくれりあつるもくろりハらりてまうん
其つるまも 血 血上の又之師のまわりの中あり其の共るまわりの序とす言れ

希とくろり人とも
原の通まよとみ何一人
もあれと悪名の人何
みも甚しくやしく
人るれしやらしきりて
コトぬかり

よかりまこくろりしきうん 孟 孟とてぬまゆえ 師 師の山容成山名余亦智
皆りてとけしこも冷泉夜のうくれりあつるもくろりハらりてまうん
其つるまも 血 血上の又之師のまわりの中あり其の共るまわりの序とす言れ

原

原

